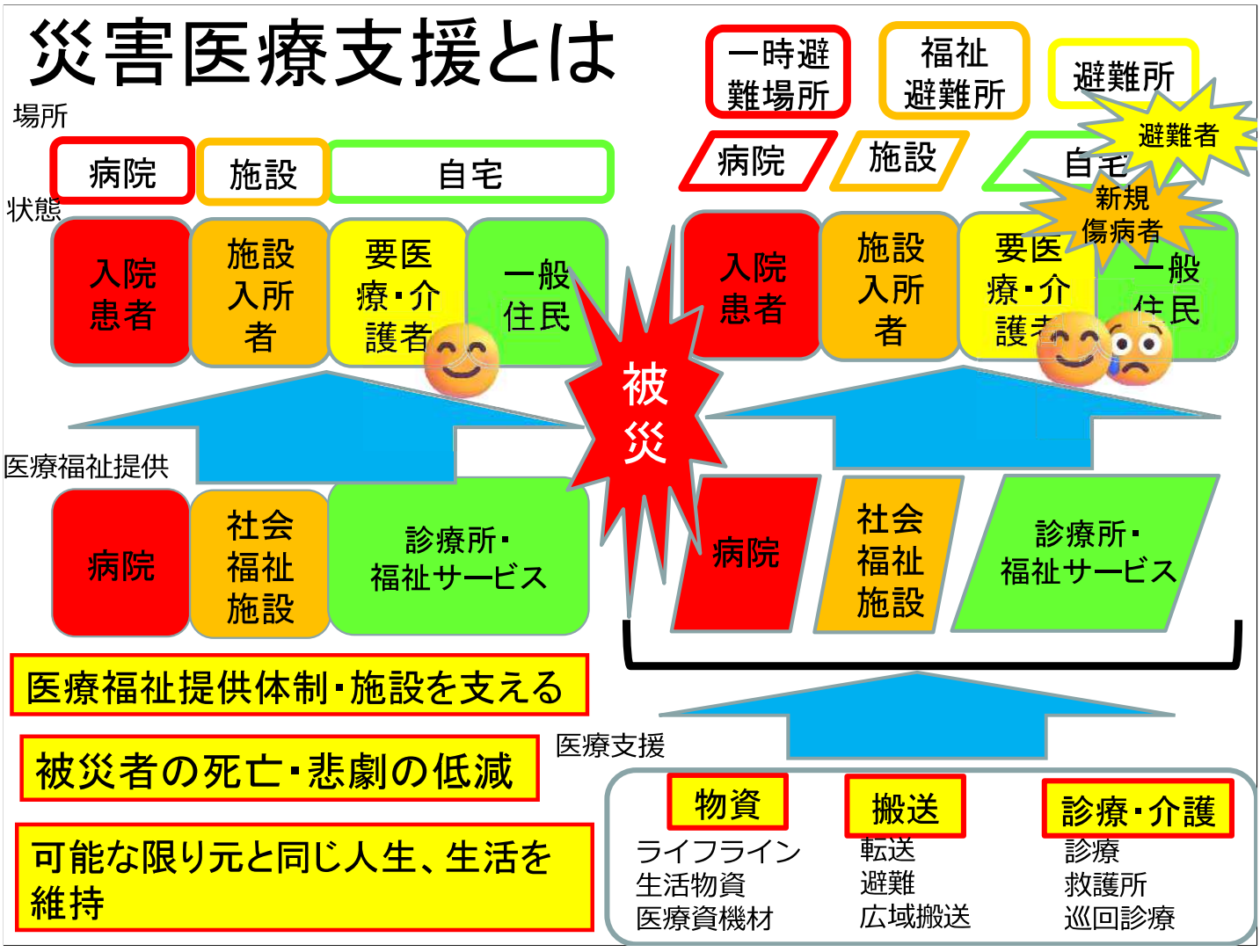
能登半島地震における
保健医療福祉支援活動

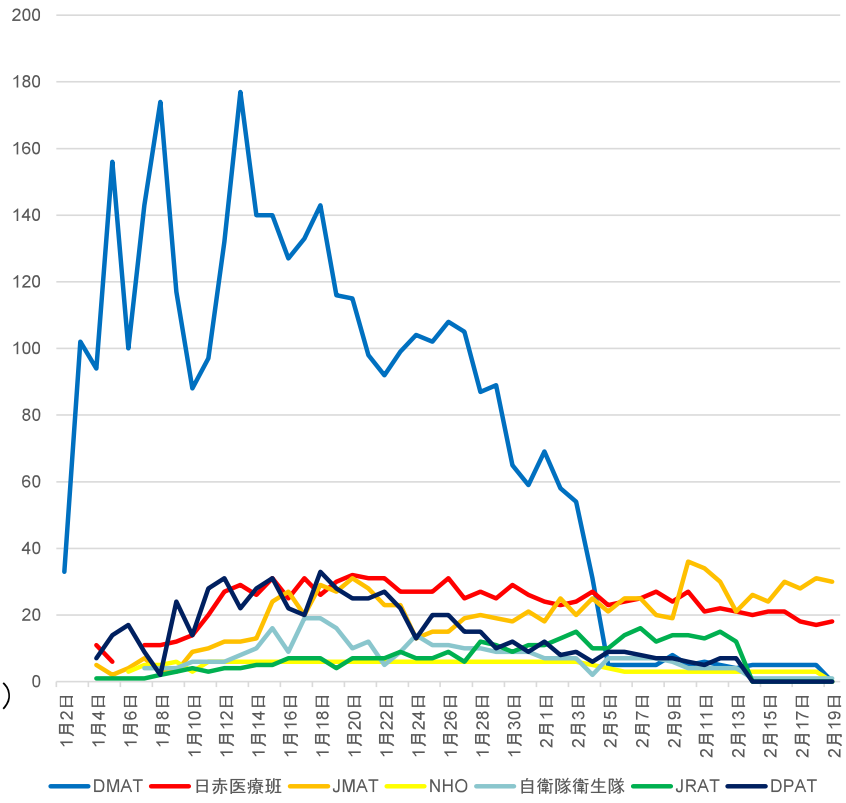
DMAT事務局
次長　近藤久禎

災害医療支援とは



能登半島地震：保健医療福祉支援チーム

- DMAT　1139チーム
（ロジチーム除く）
- JMAT　682チーム
- 日赤　441チーム
- NHO　72チーム
- DPAT184チーム
- JRAT529チーム
- JDAT193チーム
- 看護師（看護協会等）
6166名
- 薬剤師　3925名
- DHEAT　103チーム
- 自衛隊衛生隊
- NGOs（PWJ、TRAT、AMDA、HuMA）
- 保健師
- JDADAT、管理栄養士
- DWAT（全社協、老施協等）



令和6年2月28日現在　石川県発表ベース

Ⅰ 緊急医療アクセス確保

消防救出事案

	2日	3日	4日	5日	6日	7日
出動件数	3	12	19	12	10	19
生存救出者	0	2	1	0	1	0
死亡救出者	3	10	18	12	9	4

ボトルネックは
・救出・救助ではない
・避難者の孤立

空路・陸路でアクセス不可能な避難所

1月7日全ての被災者にアクセス
緊急用医療者がいないことを確認

透析患者搬送

	1月2日	1月3日	1月4日	計
能登町		30	0	30
輪島市		30	19	49
珠洲市	1	0	42	43
穴水市		10	13	23
合計	1	70	74	145

搬送手段		
	陸路	空路
搬送者数	102	43

2024/1/20北國新聞

空路搬送患者

	搬送元	年齢	性別	傷病名
	病院	69	女	下腿開放骨折、ショック
	病院	48	男	頭部・顔面外傷
	避難所	71	女	右手小指下腿開放骨折
	病院	11	男	クラッシュ
	病院		男	骨盤開放骨折
	病院	68	女	右上肢骨折、クラッシュ
	病院	56	女	右下腿骨折、クラッシュ、腹腔内出血
	病院	10	女	骨盤骨折
	避難所	90	女	クラッシュ、酸素低下
	避難所	47	女	クラッシュ、下腿骨折
	病院	20	男	骨盤骨折
	病院	76	女	左肩骨折、左血胸、クラッシュ
	病院	44	女	臀部打撲
	病院	92	女	右下腿開放骨折
	病院	76	女	右下腿開放骨折
1/2	病院	42	男	右気胸、酸素低下、クラッシュ
	病院	60	男	転落外傷
	病院	60代	男	頭部外傷、頭出血
	避難所	52	女	胸部圧迫、クラッシュ疑い
	避難所	92	女	肋骨骨折
	避難所	83	男	頭部外傷、四肢麻痺
	避難所	16	男	骨盤骨折、大腿骨骨折
	自衛隊		不明	頭部外傷
	自衛隊	46	女	大腿骨骨折
	自衛隊	46	女	頭部外傷
	病院	60	女	クラッシュ
	避難所	40	女	コンパートメント
	避難所	14	女	右大腿コンパートメント
	避難所	89	男	挟まれたことによるクラッシュ
	避難所	70	女	頭蓋骨骨折

	搬送元	年齢	性別	傷病名
	病院	48	女	血胸　圧迫骨折　下肢脱力
	病院	82	男	下肢クラッシュ
	病院	57	男	脱臼骨折（左股関節）
	病院	49	男	クラッシュ（17時間挟まれ）　右下肢腫脹（＋＋）腎不全
1/3	病院	71	女	左大腿骨骨幹部骨折
	病院	55	女	左大腿骨骨幹部骨折
	病院	64	男	頭蓋骨開放骨折　右脳出血（DNARだったが復活してきた）
	避難所	68	女	ショックバイタル　現在回復
	自衛隊	80	男	骨盤骨折疑い　歩行可　付き添い1人
	病院	84	男	クラッシュ疑い　乏尿
	避難所	68	M	衰弱、ショック
	病院	84	M	重症熱傷30%　左下肢中心に広範囲
	病院	82	M	クラッシュ症候群
	病院	58	M	LK　酸素3L投与
1/4	病院	61	F	右大腿骨骨折　クラッシュ　DM
	病院	79	M	クラッシュ疑い
	病院	49	F	大腿骨骨幹部骨折　（手術適応）
	自衛隊	79	M	クラッシュ
	病院	89	F	クラッシュ、K4.8

Ⅱ 最低限環境（暖房、飲料水、食料）整備と緊急避難搬送

病院:
1月6日　最低限環境確保
1月9日　最低限水確保

社会福祉施設:

1月4日　電話不通　26施設
1月11日　最低限環境確保
寒冷環境8施設

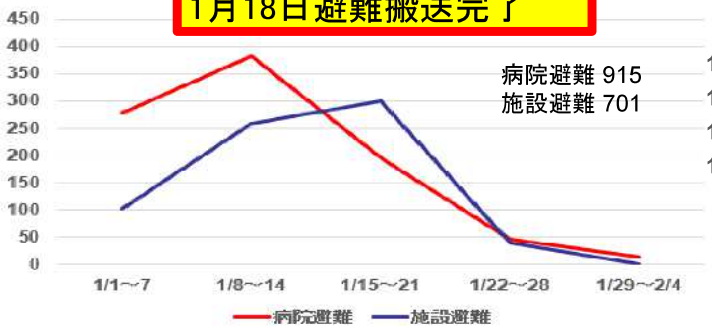
社会福祉施設への補給
・公的でない場所
・声の小さい被災者
・情報システムに課題

搬送調整
・臨時施設・出口調整
・医療福祉垣根ない受入に課題

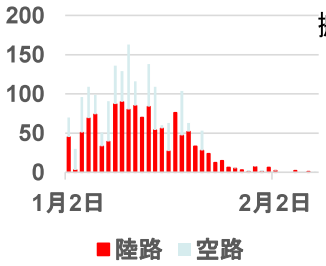
1月11日最低限環境確保手配終了

避難搬送

1月18日避難搬送完了



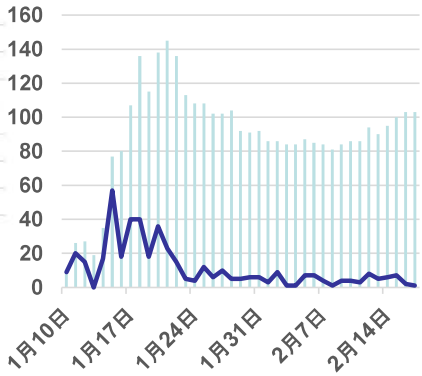
病院避難 915
施設避難 701



搬送調整総計1952

民間救急搬送　621

いっとき待機ステーションでの受け入れ　ケアマネ調整



	調整介数
1月6日	3
1月7日	14
1月8日	10
1月9日	74
1月10日	50
1月11日	22
1月12日	48
1月13日	20
1月14日	9
1月15日	16
1月16日	0
1月17日	17
1月18日	29
1月19日	21
1月20日	1
1月21日	4
1月22日	15
1月23日	11
1月24日	10
1月25日	4
1月26日	18
1月27日	6
1月28日	1
1月29日	7
1月30日	7
1月31日	10
2月1日	4
2月2日	3
2月3日	0
2月4日	1
2月5日	9
2月6日	10
2月7日	5
2月8日	2
合計	465

目的

病院・社会福祉施設・避難所の

I.　緊急医療アクセス確保
- ➢ 要緊急医療者の初期診療、搬送

1月7日完了

II.　最低限環境確保と緊急避難搬送
- ➢ 飲料水、食料、暖房環境確保と生活に耐ええない方の広域避難搬送

1月18日完了

III. 継続可能な保健医療福祉体制の確立
- ➢ 病院・施設・診療所機能維持支援

IV. 地域の保健医療福祉体制の復旧

⇨防ぎえる災害による死亡、悲劇の低減

能登地震医療福祉機関の現状と対策

背景
- 高齢者率の高い（50%以上）地域の被災
- 病院機能の著しい低下
- 被災地環境整備困難による支援者投入の限界
- 高齢者の遠隔搬送は幸せを保証するの

搬送促進
悲劇にならないか？

県外
高齢者施設
病院
集団避難（施設毎）検討

72（県調整分）

高齢者施設
食料、水、人的、搬送支援
4412名→ 3229名（73%）
（搬送必要319名程度）
介護士
1752→1596（91%）

1183
施設維持目的
搬送183

946(県庁調整525)

高齢者施設
ほぼ枯渇
ケアマネ調整15/日

待機ST
133/160床

病院からの受入対応

40

病院
奥能登
人的支援：支援限界有
病床580→115（485↑20%）
看護師409→274（67%↑）

1040

金沢以南急性期病院
被災地から1369受入れ
救急搬送困難

400

医療福祉
緊急事態
宣言

350
スタック
計508名
解除

150

慢性期病院

2次福祉避難所設置
1000～2000規模

中能登
診療機能向上支援：水等
急性期2病院入院
860 →691床（169↓80%）

148

平常医療ニーズ

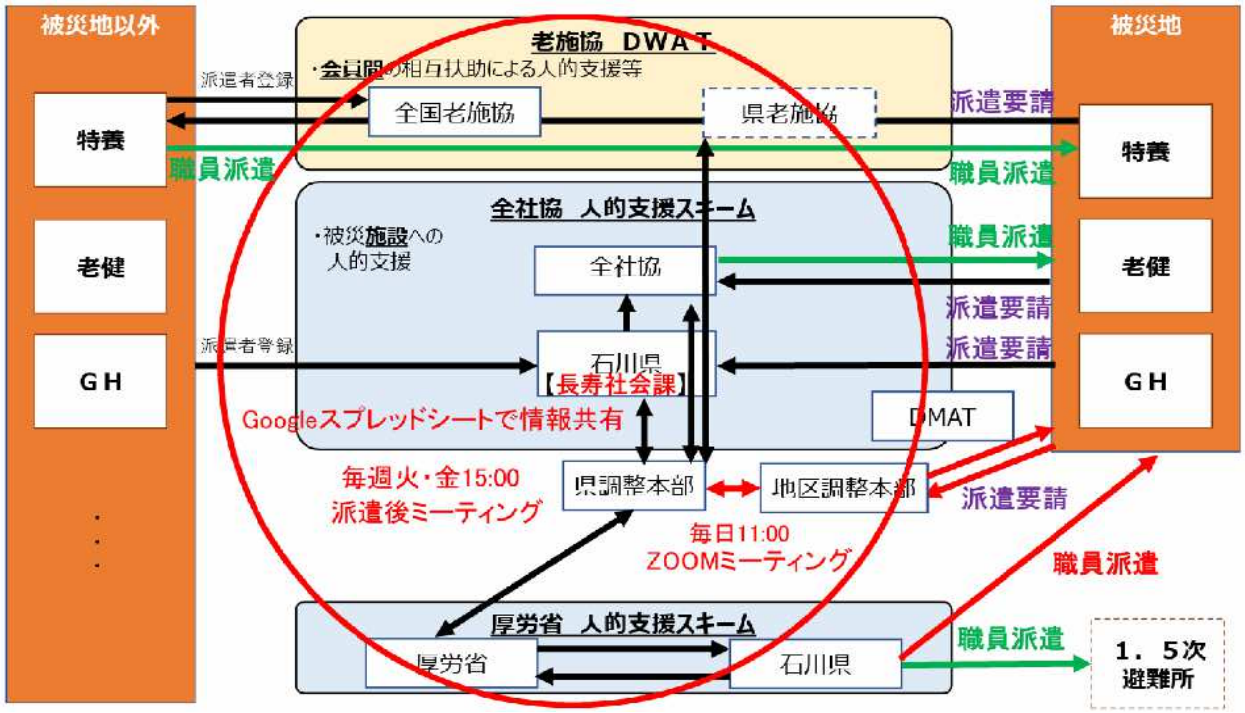
避難所
347か所、11822名

1.5次避難所
3か所、367名

2次避難所

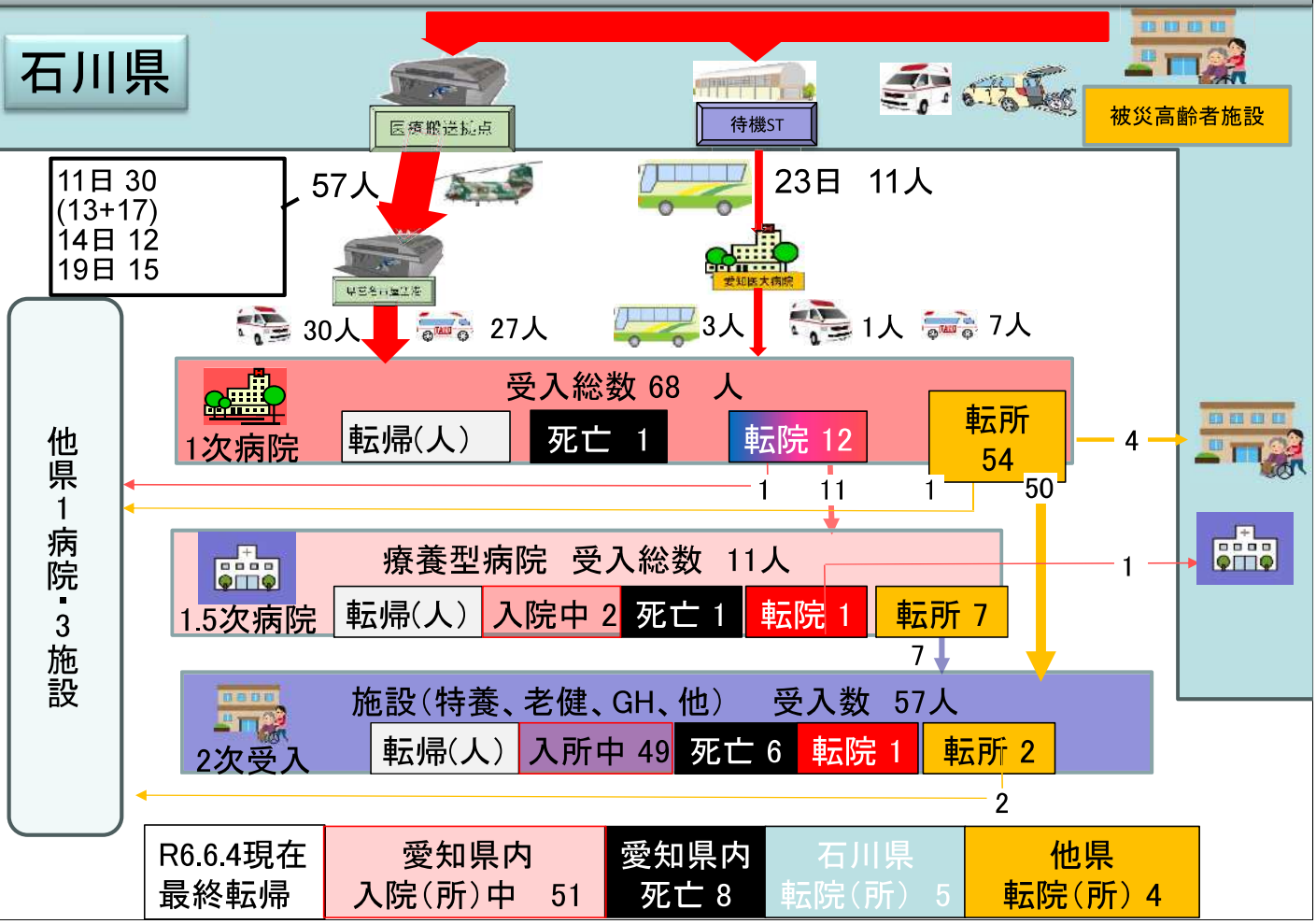
24.1.23石川県DMAT調整本部作成

高齢者施設への人的支援

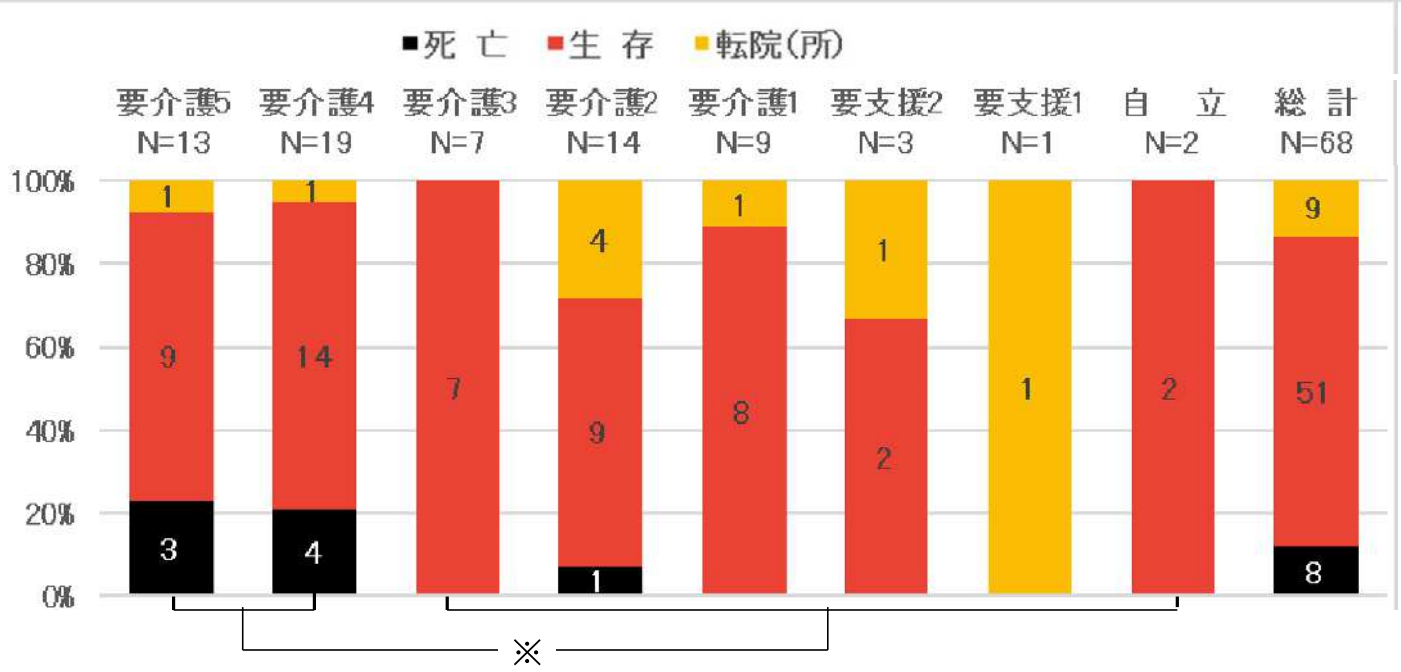


2月中旬にはフルマッチングできた

愛知県における能登地震避難受入患者の経過（N=68）



R6.6.4現在 介護度における死亡率（N=68）



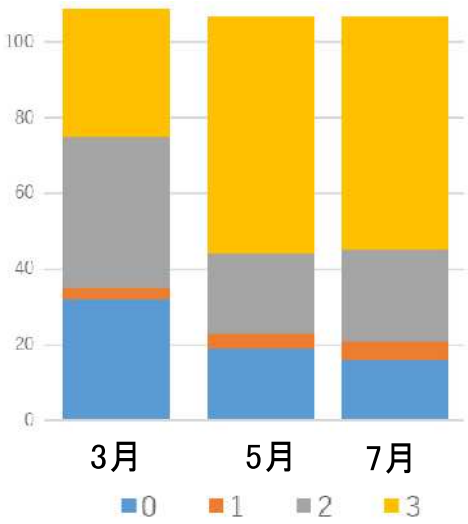
※ 要介護4以上：3以下死亡率比較
要介護4≧:≦3＝21.9%（7/32）:2.8%（1/36） O.R（95%CI）
9.8(1.13~84.7)

現在の入所サービス施設の復旧状況

各地域のSTEPの現状 7月(3月)

	珠洲市	輪島市	穴水町	能登町	七尾市	志賀町	中能登町	合計
0	2(7)	8(14)	3(3)	1(3)	1(3)	0(2)	1(0)	16(32)
1ーデイサービス	2(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(1)	0(0)	0(0)	3(1)
1ー福祉避難所	1(0)	1(2)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	2(2)
2	4(1)	5(2)	4(6)	4(8)	4(14)	2(8)	1(1)	24(40)
3	0(0)	6(3)	4(3)	9(3)	24(14)	15(7)	4(4)	62(34)
合計施設数	9(8)	21(21)	11(12)	14(14)	29(32)	17(17)	6(6)	107(110)
	能登北部				能登中部			
戻し搬送完了人数	86	24	15	18	69	2	0	214

STEPの推移



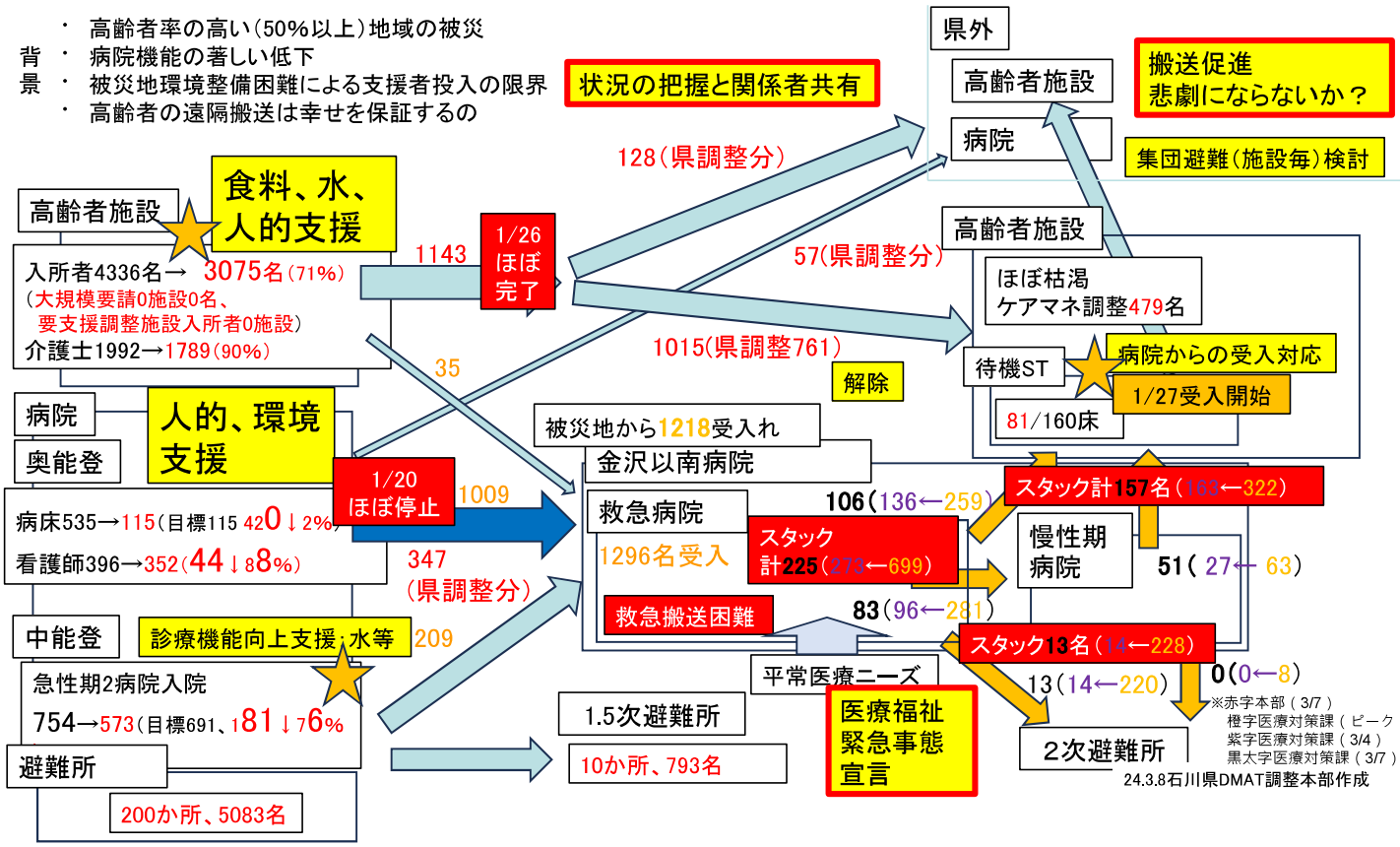
0:全避難
1:救助法活用
2:ダウンスケール入所
3:フルスケール入所

※ STEP0の16施設中5施設が連絡が取れない又は廃業決定
※ 残り11施設のうち再開に向けての懸念事項(6月調査時点:重複回答あり)
建物関連:3施設:8施設、設備・水関連:10施設、
職員関連:8施設、利用者関連:4施設
※ 設備・水の懸念があるものの全避難しなかった輪島・珠洲の施設:4施設

能登地震医療福祉機関の現状と対策

背景
- 高齢者率の高い(50%以上)地域の被災
- 病院機能の著しい低下
- 被災地環境整備困難による支援者投入の限界
- 高齢者の遠隔搬送は幸せを保証するの

状況の把握と関係者共有



目的

病院・社会福祉施設・避難所の

I. 緊急医療アクセス確保
- 要緊急医療者の初期診療、搬送

1月7日完了

II. 最低限環境確保と緊急避難搬送
- 飲料水、食料、暖房環境確保と生活に耐ええない方の広域避難搬送

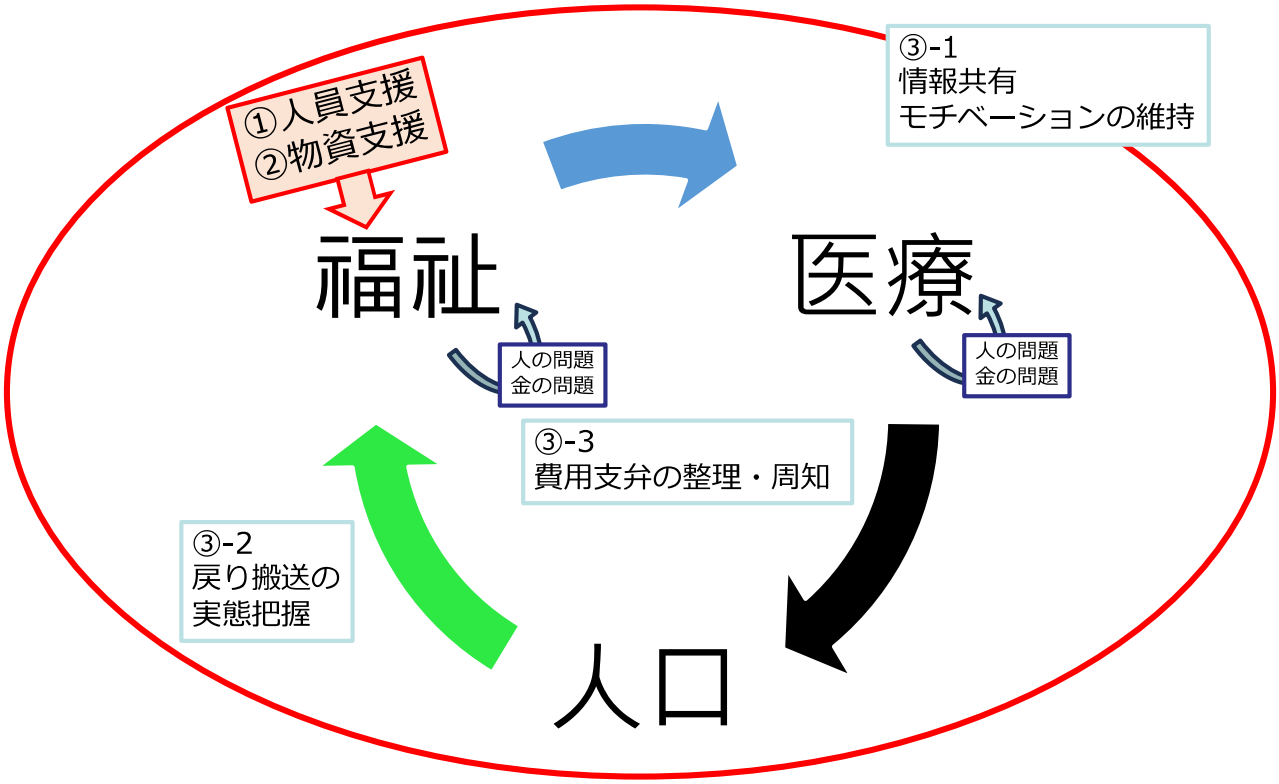
1月18日完了

III. 継続可能な保健医療福祉体制の確立
- 病院・施設・診療所機能維持支援

IV. 地域の保健医療福祉体制の復旧

1月29日

⇨防ぎえる災害による死亡、悲劇の低減



施設入所者・職員数（輪島市）

各施設で見ると発災前より仕事量が上昇している施設も存在

		入所者			全職員数			看護師			介護職員		
		震災前	現在	現在/前比	震災前	現在	現在/前比	震災前	現在	仕事量変化	震災前	現在	仕事量変化
1		47	43	0.914894	33	29	0.878788	3	3	0.9148936	34	26	1.19639935
2		95	100	1.052632	47	44	0.93617	4	2	2.1052632	43	42	1.07769424
3		109	92	0.844037	72	60	0.833333	5	5	0.8440367	74	55	1.13561301
4		100	6	0.06	45	27	0.6	5	3	0.1	40	24	0.1
5		18	18	1	20	13	0.65	1	1	1	19	12	1.58333333
6		46	20	0.434783	15	11	0.733333	3	1	1.3043478	12	10	0.52173913
7		15	10	0.666667	0	2	#DIV/0!	0	0	#DIV/0!	5	2	1.66666667
8		96	12	0.125	42	32	0.761905	13	6	0.2708333	29	26	0.13942308
9		50	0	0	37	20	0.540541	5	3	0	33	17	0
10		102	0	0	56	52	0.928571	5	5	0	51	47	0
11		29	0	0	17	9	0.529412	2	1	0	15	8	0
12		29	0	0	20	6	0.3	1	0	#DIV/0!	16	6	0
13		16	0	0	13	0	0	1	0	#DIV/0!	15	0	#DIV/0!
合計		752	301	0.400266	417	305	0.731415	48	30	0.6404255	386	275	0.56182785
稼働施設のみの合計		526	301	0.572243	274	218	0.79562	34	21	0.9264892	256	197	0.74362587

- 地域としての絶対的な不足はない
  - ー地域全体での数的評価
  - ー支援マッチングの現状：スポット支援中心
- 復職、転職にあたっての人材の有効活用が課題
- 職員士気の高揚・維持、丁寧な人的支援調整体制が必要

目的

病院・社会福祉施設・避難所の

Ⅰ. 緊急医療アクセス確保
要緊急医療者の初期診療、搬送

ボトルネックは
・救出・救助ではない
・避難者の孤立

Ⅱ. 最低限環境確保と緊急避難搬送
飲料水、食料、暖房環境確保
生活に耐ええない方の広域避難搬送

社会福祉施設への補給
・公的でない施設、声の小さい被災者
・情報システムに課題
避難搬送
・臨時施設・出口調整
・医療福祉垣根ない受入に課題

Ⅲ. 継続可能な保健医療福祉体制の確立
病院・施設・診療所機能維持支援

医療福祉施設維持
・避難は悲劇
・全避難は復旧に悪影響
・一般市民の広域避難？
・人的支援枠組み確立

Ⅳ. 地域の保健医療福祉体制の復旧・復興

⇨防ぎえる災害による死亡、悲劇の低減、地域社会の存続・復旧

今必要なこと：地域の保健医療福祉体制の復旧・復興

人口減少社会における災害
低減すべき悲劇とは、誰のための復旧・復興か

【目的】

- 被災高齢者に可能な限り元と同じ人生、生活を維持することにより災害による悲劇を低減させる

【目標】

- 能登地域における福祉提供体制の早期復旧をはたす
- 能登地域への帰還を促進する

【対策】

- 「福祉の復興が最重要、福祉の担い手が能登復興の中心である」とのメッセージの明示：首長レベル、マスコミ広報
- 帰還方針の明示：石川県外⇒県内⇒能登⇒町村
- 施設、帰還者の実情に応じた丁寧な人材確保対策、帰還支援対策